

第1項 全体評価

1 評価結果

北九州市立病院機構における令和2年度の業務実績の全体評価は、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」とする。

2 評価理由

第1期中期計画期間の2年目である令和2年度の業務実績について、第1、第2、第3の大項目評価は「評価B」、第4は「評価A」となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても、積極的かつ機動的に対応し、新型コロナウイルス感染症患者受入れの重点医療機関として、中心的な役割を果たした。

また、理事長を中心に、地方独立行政法人制度の特長を活かした自立的な運営を目指した取組みを着実に実施し、「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「その他業務運営」の項目について、評価が向上した。このため、令和2年度の業務実績は「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価した。

なお、財政内容について、営業収支・経常収支・単年度実質収支が黒字化したが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいと見据えて、引き続き、独自の経営改善を進めていくとともに、長期収支の均衡を図っていく必要がある。

3 大項目別の評価結果一覧

大項目	評価項目数	小項目評価数					平均	大項目評価
		評価5	評価4	評価3	評価2	評価1		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12	1	4	6	1		3.4	B
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	8		3	5			3.4	B
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	4			4			3.0	B
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	3	1	1	1			4.0	A
合計	27	2	8	16	1	0	-	-

【大項目評価】

評価S：評価Aを満たした上で、特筆すべき進捗が認められる（市長が特に認める場合）
 評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる（小項目評価結果の2以下が無く、平均が3.5以上）
 評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる（小項目評価結果の2以下の項目評価数が2以下で、小項目評価結果の平均が3以上）
 評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている（小項目評価結果の平均が3未満）
 評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある（市長が特に認める場合）

【小項目評価】

評価5：年度計画を大幅に上回って実施している。
 評価4：年度計画を上回って実施している。
 評価3：年度計画を順調に実施している。
 評価2：年度計画を十分に実施できていない。
 評価1：年度計画を大幅に下回っている。

第2項 項目別評価（評価理由）

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	<p>感染症医療において、新型コロナウイルス感染症に対し、市内唯一の第二種感染症指定医療機関である医療センターに加えて、八幡病院においても、積極的かつ機動的に対応し、市全体の入院患者数の約4割を受け入れるなど、新型コロナウイルス感染症患者受入れの重点医療機関として、中心的な役割を担った。</p> <p>救急医療において、八幡病院は、北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、24時間365日救急患者を断らず受け入れ、適切な医療を提供する救命救急センターの役割を担うものの、救急応需率が低下しており、内科系医師などの医師確保が課題である。</p> <p>医療の充実において、医療センターでは、地域連携がん診療拠点病院として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用が進み、リニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の適応拡大など、高度で専門的な医療を提供するための取組みや、緩和ケアセンター、薬剤師外来の開設、チーム医療の強化・充実、がん患者や家族の支援機能の充実などを実施した。</p> <p>八幡病院では、小児医療については、新型コロナウイルス感染症の影響による患者の減少はあったものの、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に必要な医療を提供した。</p> <p>医療の質の確保のため、両病院とも人材の確保や育成に向けた取組みを進めるとともに、クリニカルパス件数・適用率の向上、チーム医療の推進や医療安全対策など、年度計画に基づいた取組みを進めた。また、治験等件数が大幅に増加するなど、医療に関する調査・研究に積極的に取り組んだ。</p> <p>市民・地域医療機関からの信頼確保については、紹介率・逆紹介率ともに向上し、連携が進んでいる。以上のことから、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。</p>
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	<p>「経営戦略会議」の立ち上げなど、理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制が確立してきた。また、自立的な業務運営体制の構築を進めるとともに、経費削減・抑制対策についての取組みを進めた。</p> <p>両病院とも、施設基準の取得や適切な診療報酬の確保について、取組みが進んでいる。</p> <p>一方で、新型コロナウイルス感染症の影響による市民の受診控えや診療制限等により患者数・病床利用率は低下したが、柔軟な病床運営やコロナ禍での稼働率向上に取り組んだ。</p> <p>このため、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。</p>
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	<p>新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいと見据えて、営業収支及び経常収支の黒字化、単年度実質収支の黒字化、年度末資金剰余の増加を達成できた。</p> <p>国や県の補助金制度が縮小・廃止となる場合を見据えて、引き続き、独自の経営改善や長期的な資金収支の均衡を図っていく必要がある。</p> <p>このため、「中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる」と評価する。</p>
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	<p>看護専門学校において、卒業生の市内就職率が、令和5年度の目標値を上回り、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ、効率的な運営を行っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的役割を担ったことから、「中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる」と評価する。</p>

地方独立行政法人北九州市立病院機構 令和2年度の業務実績に関する評価結果（案）

（セ）：医療センター、（ハ）：八幡病院

項目	令和2年度的主要な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				
1 政策医療の着実な実施				
(1) 感染症医療	<ul style="list-style-type: none"> ●第二種感染症指定医療機関である医療センターだけでなく、八幡病院においても新型コロナウイルスの外来患者及び入院患者の受入れ対応を実施し、市内医療機関の新型コロナ対策の中核的な役割を担った。 ●新型コロナに対応するため、各病棟からの看護師等の応援体制を構築（セ） ●新型コロナに対応できる職員育成のための研修会を実施（セ・ハ）、感染管理認定看護師の養成研修へ職員派遣（セ） ●新型コロナ対策について、福岡県・北九州市の要請に応じて対応（セ・ハ） 	5	5	新型コロナウイルス感染症に対し、第二種感染症指定医療機関である医療センターに加えて、八幡病院においても、積極的かつ機動的に対応し、市全体の入院患者数の約4割を受け入れるなど、コロナ受入れの重点医療機関として、中心的な役割を果たした。また、感染拡大に対応するためにハード・ソフト両面での整備を進めたこと、病院スタッフの迅速な対応や尽力などを踏まえ、評価「5」とした。
(2) 周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> ●総合周産期母子医療センターの運営（セ） ●運用の見直し（セ） 	3	3	新型コロナウイルス感染症拡大の中、母体搬送件数[R1:98件→R2:70件]、NICU受入患者数[R1:2,476件→R2:1,958件]ともに減少したが、総合周産期母子医療センターを24時間体制で運営し、高度で専門的な医療を提供しているため、評価「3」とした。
(3) 小児救急を含む救急医療	<ul style="list-style-type: none"> ●救命救急センター、小児救急センターの運営（ハ） ●医師確保に向けた取り組み（ハ） ●救急救命士の採用（ハ） ●循環器内科医師不足による救急受け入れ制限（ハ） <ul style="list-style-type: none"> ・救急車応需率 80.6%、受入件数 3,053件 ・救急手術件数 350件 ・小児救急ウォークイン件数 15,769人 	3	2	<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、八幡病院では、救急受入件数[R1:3,604件→R2:3,053件]、救急車応需率[R1:94.0%→R2:80.6%]、小児救急ウォークイン患者数[R1:30,402人→R2:15,769人]と大幅に減少した。救急受入件数は、市全体の救急車搬送件数の減少割合を上回る減少であり、救急車応需率も低迷している。</p> <p>北九州医療圏における救急医療体制の中核施設として、救命救急センターの役割を担うためには、24時間365日救急患者を断らず受け入れ適切な医療を提供する必要がある。</p> <p>このため、年度計画を十分に実施できていないと判断し、評価「2」とした。内科系医師など医師の確保や院内体制の見直し及び充実・強化に向けた取り組みを期待する。</p>
(4) 災害時における医療	<ul style="list-style-type: none"> ●災害医療連絡協議会の開催（ハ） ●災害医療研修センターにおける人材育成に向けた取組（院内関連会議）実施（ハ） ●災害情報配信システムの導入（セ） ●BCP（業務継続計画）に基づいた、対策の検討や訓練の実施（セ・ハ） 	3	3	災害時における医療について、災害発生時に備えた取り組みや、被災地にDMAT派遣を行うなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。
2 医療センター及び八幡病院の特色を活かした医療の充実				
(1) 医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ●がんゲノム医療提供体制の整備 ●エキスパートパネル20回実施 ●手術支援ロボット「ダヴィンチ」手術件数増加（外科54件、泌尿器科71件）、リニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の適応拡大 ●移植後フォローアップ外来の新設、緩和ケアセンター支援機能強化、薬剤師外来機能強化 ●がん相談支援センターやがん看護外来の充実 ●連携ネット北九州の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者数 4,844人 ・化学療法件数 16,632件 ・放射線治療件数 10,682件 ・連携ネット北九州新規登録患者数 1,159件 	4	4	<p>地域がん診療連携拠点病院（高度型）として、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用が進み、リニアックによるIMRT（強度変調放射線治療）の適応が拡大するなど、高度で専門的な医療の提供体制が充実した。</p> <p>また、緩和ケアセンターや薬剤師外来、チーム医療の充実など、がん患者や家族の支援機能を充実させる取り組みや、連携ネット北九州などががん治療に関する地域医療機関との連携の強化を進めた。</p> <p>新型コロナによる受診控えの影響を受けつつも、医療センターの特色であるがん診療の充実を薦めた。</p> <p>以上のことから、評価「4」とした。</p>
(2) 八幡病院	<ul style="list-style-type: none"> ●小児救急・小児総合医療センターの運営 ●小児集中治療室・無菌室等を活用した医療提供 ●小児慢性特定疾患レスパイト支援事業等レスパイト入院の実施 ●消化器・肝臓病センターの運営 <ul style="list-style-type: none"> ・小児科患者数（外来） 32,424人 ・小児科患者数（入院） 21,894人 	3	3	新型コロナウイルスの影響による小児患者の減少はあったものの、小児医療については、「小児救急・小児総合医療センター」を中心に必要な医療を提供しており、評価「3」とした。

項目	令和2年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
3 医療の質の確保				
(1) 人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ●全体での職員採用計画の作成、職種ごとに複数回採用試験実施 ●リクルート活動の強化 ●医師事務作業補助、病棟クラーク等の増員 ●診療情報管理士、医療事務職員の採用、事務職員のプロパー化 ●資格取得支援制度、教育研修制度の構築に着手 ●女性医師の就業環境整備、院内保育所での病児保育開始 <ul style="list-style-type: none"> ・看護実習受け入れ数 医療センター128人、八幡病院45人 ・専門医資格取得数 医療センター196件、八幡病院110件 ・指導医資格取得件数 医療センター113件、八幡病院51件 ・初期臨床研修医 医療センター11人、八幡病院5人 ・専攻医 医療センター14人、八幡病院10人 ・専門看護師 医療センター1人 ・認定看護師 医療センター22人、八幡病院18人 ・診療情報管理士数 医療センター8人、八幡病院1人 	3	3	医療スタッフの確保や職場環境の整備、医療スタッフの専門性や医療技術向上のための資格取得支援制度の充実などを進めており、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。
(2) 医療の質の確保、向上	<ul style="list-style-type: none"> ●「チーム医療」の推進 ●がんセンター、糖尿病センター開設 ●クリニカルパスの活用の推進 ●手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用等、医療の高度化に対応するための取組み <ul style="list-style-type: none"> ・医療チーム編成状況 ※1は医療センターのみ、※2は八幡病院のみ 緩和ケア（※1）、認知症ケア、感染防止対策、栄養サポート、医療安全管理、呼吸ケアサポート、褥瘡（じょくそう）管理、排尿ケア（※2） ・クリニカルパス件数 医療センター226件、八幡病院273件 ・クリニカルパス適用率 医療センター32.1%、八幡病院30.6% 	4	3	チーム医療の推進への取組みや高度な医療機器の計画的な整備、更新を進めている。クリニカルパスの活用については、件数[医療センターR1:229件→R2:226件、八幡病院R1:218件→R2:273件]、クリニカルパス適用率[医療センターR1:26.6%→R2:32.1%、八幡病院R1:20.5%→R2:30.6%]が増加している点は、評価できる。他の病院の平均的なクリニカル適用率約40%を上回るよう更なる向上を期待する。年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
(3) 医療安全の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナの特命チームを立ち上げ、患者受入体制・院内感染防止等について病院内での体制構築 ●院内ラウンドや医療安全研修会の実施 ●インシデント・アクシデントレポートの分析による医療事故等の予防策の検討などへの取り組み ●機構全体の危機管理体制の調査・研究に着手 <ul style="list-style-type: none"> ・研修等実施回数 医療センター34回、八幡病院46回 ・インシデント・アクシデントレポート提出回数 医療センター1,468回、八幡病院1,386回 	4	4	感染リスクの高い新型コロナウイルス感染症に対して、特命チームの立ち上げなどにより、患者受入体制や院内感染防止などについて適切な予防策を講じた。また、医療事故等に対してマニュアル・手順の見直しや情報の集約化などを進めた。医療安全への対応が進んだことから評価「4」とした。
(4) 医療に関する調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床研究等の受託拡充のための取り組み実施 ●臨床研究推進室設置 ●治験・臨床研究に関する施設や設備の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・治験等実施件数 医療センター181件、八幡病院21件 	4	4	医療に関する調査・研究に積極的に取り組むための体制が整い、治験等件数[医療センターR1:109件→R2:181件、八幡病院R1:31件→R2:21件]が、全体として大幅に増加していることから、評価「4」とした。

項目	令和2年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント																		
4 市民・地域医療機関からの信頼の確保																						
(1) 患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●全職員対象の接遇研修を実施 ●セル看護方式やPNSの導入に向けたマニュアル作成やモデル病棟での試行実施し、評価・改善 ●受付・診察の待ち時間の短縮に向け、改善プロジェクトチームを立ち上げ、開院時間・再来受付時間の変更、会計窓口等レイアウト変更、待ち時間表示案内システムの導入 ●消化器センター、女性専用病棟、患者支援センターの運用（医療センター） ●入退院センターの体制強化（医療センター対象診療科拡大：泌尿器科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科） ●広報対応の体制強化 ●患者や市民への情報提供の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修回数 医療センター4回、八幡病院0回 ・研修参加延人数 医療センター116人、八幡病院0人 ・患者満足度調査結果 <ul style="list-style-type: none"> 医療センター 4.1点（入院）、3.7点（外来） 八幡病院 4.3点（入院）、4.2点（外来） ・広報誌等発行回数 医療センター4回、八幡病院15回 ・市民向け講座等開催回数 医療センター0回、八幡病院0回 	3	3	患者ニーズの把握や院内環境の整備、診療内容や治療実績等の情報発信などに取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。																		
(2) 地域医療機関等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療機関へのアンケートやヒアリングの実施 ●スタッフ増員等の医療連携室の体制強化 ●地域・近隣医療機関への訪問（医療センター859件、八幡病院519件）、広報活動の実施 ●地域の医療機関・医療従事者との研修会やカンファレンスの実施 ●地域の医療機関との連携強化に向けて、経営企画課と医療連携室を主体とした会議を立ち上げるとともに、紹介実績データの整理、PRツールの拡充、ヒアリング・アンケートによるニーズ把握等を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率 医療センター85.1%、八幡病院77.0% ・逆紹介率 医療センター96.2%、八幡病院110.0% ・共同利用件数 <ul style="list-style-type: none"> 高額医療機器 医療センター1,193件、八幡病院665件 開放病床 医療センター92件、八幡病院27件 ・地域医療従事者研修実施回数 <ul style="list-style-type: none"> 医療センター7回、八幡病院10回 ・登録医療機関件数 医療センター587件、八幡病院237件 ・地域医療連携会議参加人数 医療センター0人、八幡病院0人 	4	4	医療連携については、医療連携室の機能強化や返書管理の徹底等により、紹介率[医療センターR1:85.2%→R2:85.1%、八幡病院R1:63.6%→R2:77.0%]、逆紹介率[医療センターR1:81.3%→R2:96.2%、八幡病院R1:82.3%→R2:110.0%]と推移しており、地域の医療機関等との連携促進に向けた取り組みが進展している。医療センターと八幡病院の連携も、理事長のリーダーシップの下、進んでいることから、評価「4」とした。																		
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																						
1 収入増加・確保対策																						
(1) 病床利用率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●具体的な数値目標を設定し、営業活動や救急受入の強化、ベッドコントロールの運用見直し ●新型コロナに適切に対応するため、柔軟な病床再編を実施 ●救急患者の積極的な受入れ <table border="1" data-bbox="578 1522 1736 1732" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">医療センター</th> <th style="text-align: center;">八幡病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・病床利用率（全体）</td> <td style="text-align: center;">69.3%</td> <td style="text-align: center;">64.1%</td> </tr> <tr> <td>・病床利用率（感染症・周産期除く）</td> <td style="text-align: center;">76.9%</td> <td style="text-align: center;">---</td> </tr> <tr> <td>・外来患者数</td> <td style="text-align: center;">243,779人</td> <td style="text-align: center;">100,357人</td> </tr> <tr> <td>・入院患者数</td> <td style="text-align: center;">131,981人</td> <td style="text-align: center;">72,988人</td> </tr> <tr> <td>・手術件数</td> <td style="text-align: center;">3,362件</td> <td style="text-align: center;">1,727件</td> </tr> </tbody> </table>		医療センター	八幡病院	・病床利用率（全体）	69.3%	64.1%	・病床利用率（感染症・周産期除く）	76.9%	---	・外来患者数	243,779人	100,357人	・入院患者数	131,981人	72,988人	・手術件数	3,362件	1,727件	3	3	新型コロナウイルス感染症の影響による市民の受診控えや診療制限等により入院及び外来患者数は大幅に減少し、病床利用率は低下したが、新型コロナウイルス感染症対応や患者減少に合わせて、柔軟な病床運営を行うとともに、コロナ禍での稼働率向上に向けた取組みを行ったことは、評価できるため、評価「3」とした。
	医療センター	八幡病院																				
・病床利用率（全体）	69.3%	64.1%																				
・病床利用率（感染症・周産期除く）	76.9%	---																				
・外来患者数	243,779人	100,357人																				
・入院患者数	131,981人	72,988人																				
・手術件数	3,362件	1,727件																				

項目	令和2年度の主な取組、成果等	機構 評価	市 評価	市評価コメント
(2) 適切な診療報酬の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●専門的知識や経験を有する人材の採用 ●診療報酬請求に精通した職員の確保・育成 ●診療報酬に関する勉強会の実施 ●新たな施設基準の取得 <ul style="list-style-type: none"> ・医療センター50件（総合入院体制加算3、医師事務作業補助体制加算1(20対1)、認知症ケア加算など) ・八幡病院35件（病棟薬剤業務実施加算1、医師事務作業補助体制加算2(25対1)、地域医療体制確保加算など) ・市派遣職員比率 医療センター45.5%、八幡病院66.6% ・査定減比率 医療センター0.73%、八幡病院0.33% ・医療費徴収率 医療センター99.6%、八幡病院99.7% 	4	3	適切な診療報酬の確保に向け、専門的知識や経験を有する人材の採用など、年度計画に基づいた取組みを順調に実施している。その成果として、施設基準の取得件数[医療センター50件、八幡病院35件]や、査定減比率の向上[医療センターR1:0.75%→R2:0.73%、八幡病院R1:0.46%→R2:0.33%]などは、評価できる。以上により、評価「3」とした。
2 経費節減・抑制対策				
(1) コスト節減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●調達部門に専任職員の配置 ●高額医療機器の調達と複数年保守の一体契約を行うなど柔軟な契約制度の導入（医療センター新規14件、八幡病院新規21件） ●後発医薬品の採用率向上への取組み ●両病院の委託契約の一本化 <ul style="list-style-type: none"> ・後発医薬品採用率 医療センター91.0%、八幡病院87.8% 	4	4	調達部門への専任職員の配置、契約制度や業務委託の見直しなどへの取組みが進んでおり、後発医薬品採用率について、医療センターは91.0%で、令和5年度の目標値90.0%を達成し、八幡病院87.8%も向上していることから、評価「4」とした。
(2) 医療機器等の有効活用及び計画的な整備	<ul style="list-style-type: none"> ●高額医療機器等の稼働状況の把握・情報共有 ●臨床工学技師の増員 ●医療機器管理部門の設置や、投資計画の作成に向けた準備に着手 ●両病院での医療機器の規格統一化を検討する仕組みを構築 	3	3	医療機器等の稼働状況の把握などに着手しており、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。なお、医療機器等の稼働率をさらに高める取組みが必要である。
3 自立的な業務運営体制の構築				
(1) マネジメント体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスによる経営面・医療面の課題に迅速に対応するため、経営戦略会議を立ち上げ ●機構幹部職員で構成する経営本部会議を設置し、機構全体のマネジメント体制を構築 ●病院経営に精通した民間人材を登用して病院事務局の組織体制を強化 ●機構のシンボルマークを使用したピンバッジ・機構旗を製作 ●診療科別のヒアリングの実施 ●グループウェア「サイボウズ」において、新たに「職員ポスト」設置 	4	4	「経営戦略会議」を立ち上げるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、医療面・経営面での対策を迅速に実施し、理事長のリーダーシップの下、主体的かつ機動的な意思決定システムが構築され、マネジメント体制が確立してきたことから、評価「4」とした。
(2) 職員の経営意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●職員向けの経営状況説明会の開催 ●職員向け広報誌の定期的な発行やグループウェアを活用した情報発信 	3	3	職員向け広報誌の発行や経営状況説明会の開催等に取り組むなど、年度計画を順調に実施しているため、評価「3」とした。
(3) 法令・行動規範の遵守等	<ul style="list-style-type: none"> ●法令・行動規範の遵守に向けて、内部規定の運用や職員研修を実施 ●外部相談窓口の開設、ハラスメント対策専門官による相談受付、内部規定の整備等によるハラスメント防止対策の強化 	3	3	内部規定の整備をはじめ、ハラスメント対策専門官の配置などに取り組み、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。
4 職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●「働き方改革研究会」の提言を踏まえ、年度計画に基づく取組みを進めた。 ●医療や看護師の負担軽減のため、医師事務作業補助者及び病棟クランク配置 ●時間外勤務の削減に向けて、「時間外3時間削減運動」を開始 ●新型コロナウイルスに対応するための特殊勤務手当を拡充 ●医師の人事評価制度について、診療実績などの病院経営に対する貢献度を適正に評価し、評価結果を給与に反映させるインセンティブ制度の検討を進め、令和3年度からの導入を決定。 ●院内保育所の機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師離職率 医療センター6.7%、八幡病院6.3% 	4	4	「働き方改革推進本部」の提言を踏まえ、医師・看護師の負担軽減や時間外勤務の削減、特殊勤務手当の拡充などに取り組んでいる。看護師の離職率については、医療センター6.7%、八幡病院6.3%と、両病院とも令和5年度目標8.1%以下を上回っている。働き方改革の観点から、病院の実態に即した、職場環境の充実が図られていることから、評価「4」とした。

項目	令和2年度の主な取組、成果等	機構評価	市評価	市評価コメント
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置				
1 財務基盤の安定化				
ア 政策医療を着実に提供しつつ、地方独立行政法人制度の特長を活かした効率的な病院運営を行うことにより、財務基盤を安定化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ●月次決算による毎月の目標達成状況等の情報共有 ●部門別の目標達成状況の分析、経営課題、経営情報の共有 ●目標達成に対するインセンティブ制度の導入 	3	3	効率的な病院運営を推進するため、月次決算等による経営状況の把握や目標管理による手法の導入、各病院における経営ヒアリングを実施するなど、年度計画を順調に実施していることから、評価「3」とした。 なお、令和3年度は、財政基盤の安定化に向け、経営課題を明確にし、中期計画や年度計画の取組みを着実に進める必要がある。
イ 中期目標期間における営業収支及び経常収支の黒字化を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ●マネジメント体制の確立、目標管理の徹底、収入増加・経費節減対策の実施 ●新型コロナウイルスの影響により、大きな打撃を受けたが、独自の収支改善と、国や県の新型コロナウイルスに関する国や県の補助制度の活用により、営業収支、経常収支の黒字化 ●経営戦略会議を立ち上げ、収入増加・費用削減の取り組み、検討・実施した <ul style="list-style-type: none"> ・営業収支 15.5億円（予算比+21.1億円） ・経常収支 16.7億円（予算比+21.8億円） ・営業収支比率 法人全体105.4%、医療センター104.4%、八幡病院113.7% ・経常収支比率 法人全体105.8%、医療センター104.8%、八幡病院114.0% 	3	3	営業収支及び経常収支の黒字化は達成できているが、新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいため、評価「3」とした。 新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度が廃止や縮小となる場合を見据えて、引き続き、独自の経営改善を進めていく必要がある。
ウ 大規模な設備投資等に伴う資金の借入れや返済等、長期的な資金収支の均衡を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルスに関する国・県の制度活用と独自の経営改善による、営業収支及び経常収支及びの黒字化に伴い、単年資金（実質）収支がプラスになるとともに、年度末資金剰余も増加 <ul style="list-style-type: none"> ・単年度資金収支 10.1億円（予算比+14.3億円） ・年度末資金剰余 37.4億円（予算比+14.3億円） 	3	3	新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度の影響が大きいが、単年度実質収支が黒字化し、年度末資金剰余も増加したことから、評価「3」とした。 新型コロナウイルス感染症に関する国・県の補助制度が廃止や縮小となる場合を見据えて、引き続き、長期的な資金収支の均衡を図っていく必要がある。
2 運営費負担金のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ●市からの運営費交付金が国の基準に基づいて適切に交付されるよう、市と協議 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の運営費負担金の実績 総額 45.6億円 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> ・感染症医療 5.3億円 ・周産期医療 5.8億円 ・小児救急を含む救急医療 18.6億円 ・看護師養成費 0.6億円 ・院内保育所運営費 0.4億円 ・企業債元利償還金 11.4億円 ・基礎年金拠出金 3.5億円 	3	3	運営費負担金を適切に執行していることから、評価「3」とした。 なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う患者減の影響等により、令和2年度補正予算を計上したことから、当初計画より増額となっている。 中期計画では、運営費負担金については、法人としては、経営効率化の観点から可能な限り自立した経営を目指すこととされており、令和5年度までの運営費負担金の規模感について、検討する必要がある。
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置				
1 看護専門学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ●臨床看護及び教育の質の向上に向けて、優秀な教員人材の確保、教員の外部研修への参加などを実施 ●オープンキャンパスの実施など学校施設等の開放を実施 ●卒業生の市内就職率の向上に向けた卒業生のフォローアップを実施 ●実費負担であった「実習費」を教材や消耗品の費用も加えた定額の「実習関連費」に改め、令和4年度入学生から徴収 ●卒業生の市内就職率向上 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の市内就職率 94.4% 	4	4	卒業生の市内就職率が94.4%と、令和5年度の目標83.6%を上回っており、地域の看護師養成機関として、教育の質を確保しつつ、効率的な運営を行っていることから、評価「4」とした。
2 施設・設備の老朽化対策	<ul style="list-style-type: none"> ●医療センターの施設や設備等の老朽化対策について、機構内部での調査・検討 	3	3	老朽化状況等の調査に着手していることなどから、評価「3」とした。 医療センターの老朽化対策については、引き続き、調査・検討を進めていただきたい。
3 市政への協力	<ul style="list-style-type: none"> ●市幹部と機構幹部の意見交換や、担当部局との定期的な情報交換を実施 ●新型コロナウイルス対策において、市の要請に応じて、外来診療や入院受入れなどを積極的に実施 	5	5	新型コロナウイルス感染症対策では、市からの要請に基づき、市との連携の下、積極的な対応を行い、市内医療機関の中心的役割を担ったことから、評価「5」とした。